

## 1. 重点整備地区の選定

公共交通機関を利用した移動の円滑化を進めるためには、すべての旅客施設とその周辺の道路等を一体的にバリアフリー化することが望まれますが、国、府及び本市の財政事情や関係者が多岐にわたるなど、その取組をすべての駅周辺で総合的に推進することが困難です。

については、バリアフリー化を効率的かつ効果的に進めるため、バリアフリー化事業の効果が大きいと考えられる地区を「重点整備地区」として位置付け、バリアフリー化を重点的かつ一体的に推進します。

なお、重点整備地区は、鉄道駅の利用状況やバリアフリーの状況あるいは公共施設の立地などを勘案しながら選定します。

### (1) 駅周辺の位置づけ

#### 総合計画 <駅周辺は5つの「暮らしの拠点」として位置づけられています>

交野市総合計画（平成13年、目標年次 平成22年（2010年））において、駅周辺はそれぞれ「立地特性に応じて、交通ターミナル機能、商業業務・サービス機能、文化・福祉機能などを確保し、あわせて安全性や快適性の向上に配慮するなど市民の暮らしを支える拠点づくりを進める」としています。また、駅周辺の環境整備として駅舎やその周辺のバリアフリー化を推進するとしています。

表4 駅周辺と拠点づくり

交野市駅周辺	生活を支えるさまざまな機能が立地しており、その集積を活かしながら商業・行政機能の充実を図ります。
星田駅周辺	駅北側の土地利用動向を踏まえながら市域西部における市民の暮らしを支える拠点としての機能の充実に努めます。
JR河内磐船駅・京阪河内森駅周辺	保健福祉総合センターなどと連携した福祉・文化・行政機能の充実を図ります。
私市駅周辺	観光などにも配慮した文化・レクリエーション機能の充実を図ります。
郡津駅周辺	既存の生活利便施設やスポーツ・文化施設を生かし、身近な地域の暮らしの拠点としての機能の充実につとめます。

#### 都市計画マスタープラン <駅やその周辺などのバリアフリー化促進が示されています>

交野市都市計画マスタープラン（平成13年、目標年次 平成22年（2010年））では、都市整備の基本方針などで、駅周辺は、駅舎やその周辺のバリアフリー化などの環境整備を促進し、利便性と快適性を備えた空間形成をめざすとしています。

## (2) 鉄道交通の現状

### 立地 < 5つの地域において、6つの駅が交通の拠点となっています >

本市域には東西方向に JR 片町線（学研都市線）、南北方向に京阪交野線が走り、6つの鉄道駅 < JR 片町線 - 河内磐船駅・星田駅、京阪交野線 - 郡津駅・交野市駅・河内森駅・私市駅 > が立地しています。これらの駅周辺には、市民の生活に必要な施設が立地し、都市の発展過程から5つ < くらじ、こうづ、きさべ、ほしだ、いわふね > に集約された地域の利便性を支えています。

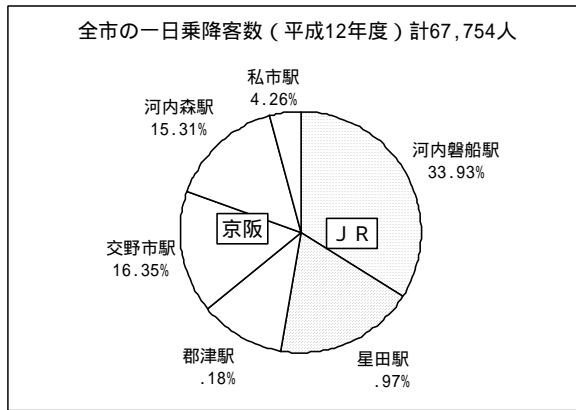


図4 地域と交通拠点

### 利用者の推移 < JR 河内磐船駅の乗降客数が増加しています >

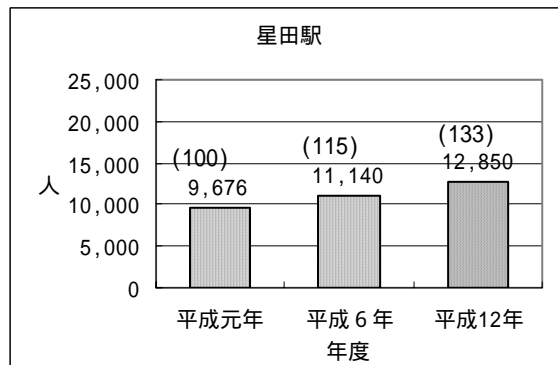
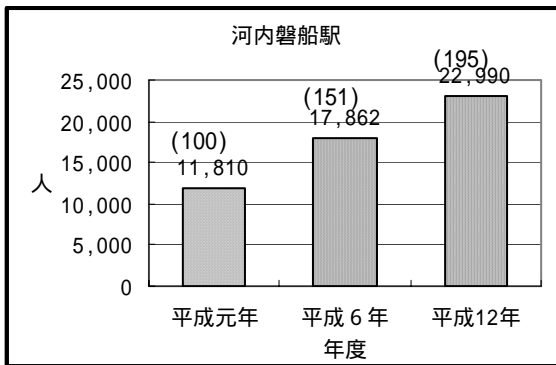
乗降客数 5,000 人 / 日以上「特定旅客施設」は、JR 片町線の河内磐船駅・星田駅、京阪交野線の郡津駅、交野市駅、河内森駅の5駅です。なかでも、JR 東西線の開通によって大都市大阪へのアクセス性が向上した河内磐船駅は、大阪への玄関口として乗降客数が増加しています。また、星田駅や河内森駅もやや増加の傾向にあります。

**本市の一日乗降客数（平成12年度）計67,754人**

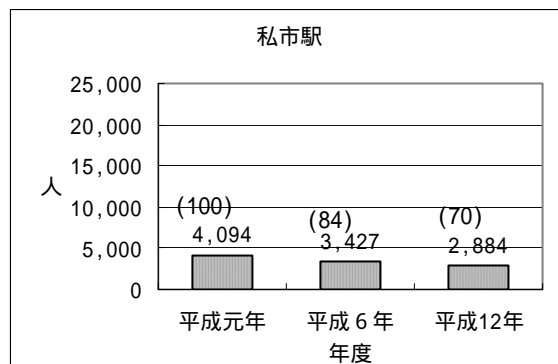
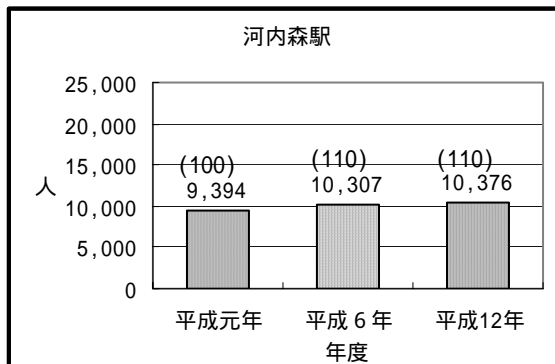
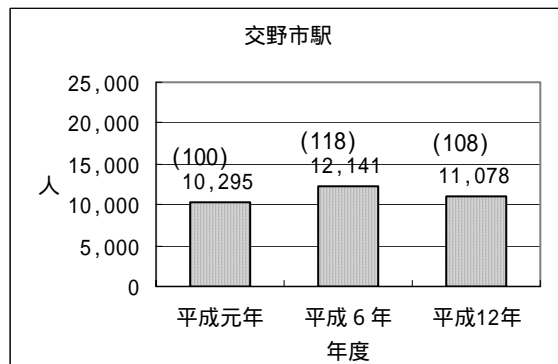
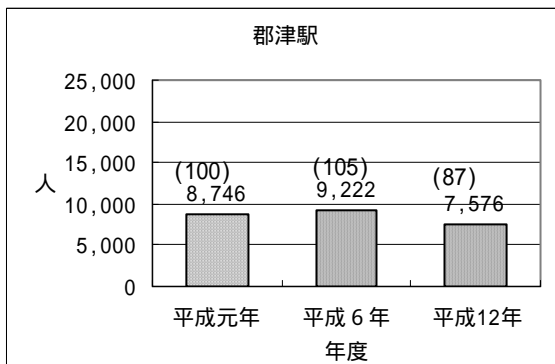


**図5 一日乗降客数と推移**

**JR片町線（学研都市線）の一日乗降客数の推移 ( ):平成元年を100とした推移**



**京阪交野線の一日乗降客数の推移 ( ):平成元年を100とした推移**



## バリアフリー整備の状況

表5 駅舎のバリアフリー整備の状況

(平成14年3月現在)

	J R 片町線		京阪交野線			
	河内磐船駅	星田駅	郡津駅	交野市駅	河内森駅	私市駅 (平面駅)
スロープ						
エレベーター	道路 改札					-
	改札 ホーム					-
エスカレーター	道路 改札					-
	改札 ホーム					-
階段昇降機				-		-
車いす用トイレ						
ベビーベッド等						
車いす対応自動改札						
車いす用渡し板						
点字券売機						
階段手摺り・段鼻						
誘導・警告ブロック						
点字案内板・触知図						
誘導鈴・チャイム						
ホーム列車案内装置						
公衆ファックス						
車いす対応公衆電話						
道路からホームへの車いす経路					一部	

：整備済み、未記入は未整備 -：整備不要 ：ステッピングカー配備

### (3) 重点整備地区

公共施設の立地や駅舎のバリアフリーの状況から、J R 河内磐船駅及び京阪河内森駅周辺を重点整備地区とします。

総合計画や都市計画マスタープランでは、各駅とその周辺は地域の拠点として位置づけられ、バリアフリー化を進めるとしています。バリアフリー化を重点的かつ一体的に進める重点整備地区は、事業を推進することによりその効果が大きい地区を選定する必要があります。

駅周辺の公共施設立地状況からみると、対象とする駅は京阪交野市駅とJ R 河内磐船駅となりますが、京阪交野市駅については一定のバリアフリー化がなされています。J R 河内磐船駅は市域で一番乗降客数が多く、今後も増加すると予測できるとともに、駅周辺には、福祉の拠点である「保健福祉総合センター(ゆうゆうセンター)」や運動休養施設の「私部公園」や「総合体育施設(いきいきランド交野)」が立地していることなどから、J R 河内磐船駅を選定します。

また、当該駅に近接している京阪河内森駅もこれら施設の最寄駅であるとともに、J R との乗換駅でもあり、本市の交通の利便性を高めていることからその対象とします。

については、J R 河内磐船駅と京阪河内森駅を重点整備地区の「特定旅客施設」とするとともに、保健福祉総合センター(ゆうゆうセンター)、私部公園、総合体育施設(いきいきランド交野)を含む区域を重点整備地区と位置付けて、バリアフリー化を推進します。